

大阪府立富田林中学校に関するFAQ(よくある質問とその回答)

I 教育内容

Q1. どんな生徒に入学してほしいと考えていますか	⇒ 富田林中学校では、「地球的視野に立ち、地域や国のことを考え行動し、国際社会に貢献する人材の育成」を教育目標とし、その達成のために①グローバルな視野とコミュニケーション力、②論理的思考力と課題発見・解決能力、③社会貢献意識と地域愛という3つの資質能力を育成します。そのため、「高い志と意欲を持って主体的・協働的に考え行動できる生徒」を求めています。
Q2. 富田林中学校が優れている点は何でしょうか	⇒ 海外を含めた豊富な体験学習をはじめとする学校行事など、21世紀を生きるたくましいグローバル人材を育成するためのカリキュラムや、「探究」と「貢献」をキーワードとした教育活動を準備しています。
Q3. 中高での6年間の学習でどの程度の英語力を身につけることができますか	⇒ 英語で自分の意見をまとめてプレゼンテーションをしたり、議論をすることができる英語力を身に付けることをめざします。具体的には、週5時間の授業を核とし、朝のホームルームや総合的な学習の時間も活用して、英語に触れる機会を大幅に増やし、英語スピーチコンテストを実施するなど、英語で自分の考えを発信する機会を多く設けます。また、英語によるコミュニケーション力や豊かな国際感覚を育むためにイングリッシュキャンプや海外修学旅行を行います。
Q4. 入学金や授業料は必要ですか。また、諸経費は他と比較してどうですか	⇒ 入学金や授業料、教科書代は不要です。ただし、一部の教科で高校の教科書を使って学習することがありますが、その際の高校教科書については有償となります。また、高校分野も含めた発展的な学習や中高一貫校用の学力推移調査などを実施しており、そのための教材や学力調査実施に関する費用がかかります。制服や体操服、実技教科に必要な物品などは一般の公立中学校と同程度の費用となります。宿泊行事については、1、2年生はイングリッシュキャンプ、3年生は海外修学旅行を予定しており、それらにかかる経費などが別途必要となります。具体的には、制服や体操服、カバン、水着、男子の柔道着、各教科の副教材、実技教科に必要な物品などで入学時に10万円程度です。2月中旬～3月上旬に採寸や物品販売を行う予定です。また、それとは別に日々の朝学習の教材や生徒手帳、学力推移調査実施などに関する費用、上記宿泊行事費の積立として年間12万程度、給食費として年間5万円程度かかり、4回に分けて納入していただきます。なお、これらの費用については、今後、多少の変更があることをご了解ください。
Q5. 富田林中学校から富田林高校へ進学する生徒と、高校受験で富田林高校に入学してくる生徒と、クラス分けはどのようなのでしょうか	⇒ 高校2年生から混合したクラスになる予定です。また一部の教科・科目は進路希望別や習熟度別の編成とする予定です。
Q6. 私立の中高一貫校は高校2年くらいまでには高校の学習内容を終了するのが一般的ですが、富田林中学校・富田林高校では通常の府立高校よりも早く高校学習課程を終了させるということはないのでしょうか	⇒ 6年間の継続した学習指導の利点を生かし、カリキュラムを工夫して希望進路に応じた発展的な学習も行えるようにする予定です。富田林中学校では、数学と英語は通常の中学校より進度が少し早くなり、中学3年生の途中で高校の教科書を使い、学習する予定です。
Q7. 大学受験に向けての取組みについて、どんなことを実施される予定ですか	⇒ 「思考力・判断力・表現力」を一層重視するとされている2020年大学入試に向けた学習活動に、中学1年生から取り組みます。
Q8. 6年間学んだあと、どのような大学への進学をめざしていますか	⇒ 6年間の学習を通して、好奇心旺盛で社会貢献意識の高い生徒を育成したいと考えています。そのなかで、生徒自身が高度な学問を学ぶ意欲を持って大学進学を検討するようになることをめざします。学習面では中学で高校の内容を積極的に組み込み、多数の生徒が難関国公立大学、難関私立大学や海外の大学に進学することをめざします。
Q9. 中高一貫校になると高校の授業レベルも高くなるのでしょうか	⇒ 英語4技能(聞く、話す、読む、書く)統合型授業や、探究活動に取り組むなど、思考・判断・表現の力を伸ばす授業を行います。
Q10. 苦手な教科があった場合、学校としての対策はありますか	⇒ 放課後に学習優先日(毎週火曜日)を設け、教員(中学校、高校)のほか外部人材(大学生等)や高校生が授業の補習的な指導を行います。(⇒「富中未来塾」) また、他の曜日や夏休みにも学習をサポートする期間を設け補習授業(⇒「スタディ・サポート」)を行ったり、希望者には学習相談や自習ができるようにして、苦手な教科などは気軽に質問ができ、苦手意識を克服できるような環境を作っています。

<p>Q11. 放課後の自習教室の開放はありますか</p> <p>⇒ 放課後は下校時刻まで自習室を開放します。また、土曜日や夏休みにも自習室を開放する日を設けています。</p>
<p>Q12. 海外研修はありますか</p> <p>⇒ 中学3年生と高校2年生の全員対象に海外研修旅行(修学旅行)を行います。中学3年生では台湾の姉妹校(中高一貫校)との交流も予定しています。また、希望者に対し、中学ではグローバル社会での「多様性」を体験する「マレーシア研修」を、高校では海外のトップレベルの大学や最先端の企業で「世界を変えるイノベーション」を学ぶ「アメリカorオーストラリア研修」を実施しています。</p>
<p>Q13. 中学入学後は6年後の大学受験に向けて塾には1年生から通うほうがよいでしょうか</p> <p>⇒ 中学校では、大学受験を見据えた学習指導を行ったり、家庭学習をしっかりできるよう課題を与えたりして生徒を支援します。また、放課後に学習優先日(週1回)を設け、授業の補足的な指導を行ったり、希望者には学習相談や自習ができるようにしています。部活動については休養日(週1回以上)を設け、家庭学習に専念できるように配慮しています。これらのことを考慮していただいたうえで、塾に通わせるかどうかについては各家庭で判断してください。</p>
<p>Q14. 中学校卒業時の学力はどのようなものをめざしていますか</p> <p>⇒ 富田林中学校では、併設型中高一貫校で認められている教育課程の基準の特例を活用し、特に数学や英語などの一部教科では、高校の学習内容の一部も指導する予定であり、富田林高校では、そのような富田林中学校での学習を前提にした、中高6年間一貫したカリキュラムを作成していきます。そのようなカリキュラムが組まれることとなる富田林高校に、入学直後から全生徒が授業をスムーズに受けることが可能となる学力がつくよう、指導します。</p>
<p>Q15. 教員配置に特色はありますか</p> <p>⇒ 富田林高校の教員が中学校の授業の発展的な学習部分など、一部の授業を担当しています。</p>

II 学校の制度

<p>Q1. 富田林中学校の成績が基準を満たさないと富田林高校へ進学できないのでしょうか</p> <p>⇒ 富田林中学校・高校は併設型中高一貫校であり、富田林中学校の生徒については、富田林高校への入学者の選抜は行わないこととなっています。そのため、富田林中学校から富田林高校に進学する際、入学試験はありませんので、全員進学できます。</p>
<p>Q2. 中学卒業時に他の高校を受験することはできますか</p> <p>⇒ 富田林中学校では、併設型中高一貫校で認められている教育課程の基準の特例を活用し、特に数学や英語などの一部教科では、高校の学習内容の一部も指導を行っており、富田林高校では、そのような富田林中学校での学習を前提にした、中高6年間一貫したカリキュラムを編成しています。 以上のことから、富田林中学校の入学を希望される場合は、富田林中学校と富田林高校で6年間学ぶことを前提にして、志願していただきたいと思えます。</p>

III 学校生活

<p>Q1. 中学校は制服はありますか</p> <p>⇒ 制服はあります。高校でも同じ制服を使用します。(男子ボタンや女子ネクタイなど、一部変わります)</p>
<p>Q2. 通学方法の決まりがあるのでしょうか(主に自転車通学)</p> <p>⇒ 保険加入やヘルメット着用などの一定の条件を満たした場合に自転車通学を認めます。</p>
<p>Q3. 中学校の校則は高校とは別でしょうか</p> <p>⇒ 中学生は発達段階が高校生徒とは異なりますので、よりきめ細かい指導が必要となります。したがって、校則は異なるものになります。</p>
<p>Q4. 中学校の修学旅行の方面は決まっていますか</p> <p>⇒ 富田林中学校・高等学校と姉妹校提携している中高一貫校がある台湾で、学校交流等を行う予定です。</p>

Q5. 学校内で中高生徒間の関わりについて何か計画がありますか

⇒ 文化祭や体育祭等の行事を合同で実施したり、部活動では活動内容によっては合同で行っています。

Q6. いじめ問題への対策はありますか

⇒ 「いじめ防止基本方針」を策定し、全教員でいじめ防止及び対応にあたり、すべての教育活動において人権教育を推進しています。

Q7. 高校2年生からコース別のクラスになりますが、希望のコースを選択するにあたって人数・成績などの制約はありますか

⇒ 専門コース(GEコース)は人数制限がありますが、標準コースでは希望に従って文系又は理系に進むことができます。

Q8. 中学校のみの生徒会がありますか

⇒ 生徒会活動は中学校と高校は別になりますが、活動内容によっては連携して取り組んでいます。

IV 学校設備

Q1. 学校の設備について、特徴的なものはありますか

⇒ HR教室・講義室にエアコン・ICT機器(電子黒板機能付きプロジェクタ、書画カメラ)を設置しています。
また、平成30年6月に「中高一貫校記念館」が完成し、講演や探究活動の発表会などに活用する階段状の大講義室(全中学生360人収容可)や、授業に活用できるセミナー室(40人収容が3室)などを有効に活用しています。

V 部活動

Q1. 部活動は高校生と合同で行われるのでしょうか

⇒ 活動内容によっては、合同で行うことがあります。

Q2. どんな部があるのでしょうか

⇒ 平成30年度に開設している部は、運動部は男子バスケットボール部、男子ソフトテニス部、女子バレーボール部、バントワリング部、女子硬式テニス部、サッカー部で、文化部は茶道部、ユネスコ部、写真部、科学部、書道同好会です。平成31年度以降の部活動については、生徒数や教員数を踏まえながら、安全面も含めて、総合的な観点から検討します。

Q3. 部活動以外のスポーツ等の活動に参加する時間はありますか

⇒ 部活動は全員必修ではないので、学校生活に支障が出ない範囲で他のスポーツや地域活動等に参加することは可能です。

VI 給食

Q1. 中学校は全員給食とありますが、学校で作られるのでしょうか、それとも外注でしょうか

⇒ 中学校の給食は、外部の給食業者が調理したものを、学校内で温めて配膳するデリバリー式給食を実施しています。

VII 入学者選抜

Q1. 私立中学校との併願は可能ですか

⇒ 併願は可能ですが、合格発表の後、合格者については数日中に「入学確約書」の提出を求めています。
一方、富田林中学校に合格したものの、併願で受験した他の中学校に進学するために入学を辞退する場合は、「入学辞退届」を提出いただきます。
なお、「入学確約書」の提出後は、必ず入学していただくことになります。

Q2. 入学者選抜に向けて、今からどのような生活を送る事が大事ですか

⇒ まず第一に、小学校の授業をしっかり受けることが大切です。その中で、分からないことや疑問に思った点は自ら進んで調べるなど、自分で積極的に解決しようとしたり、思考・判断・表現の力や記述の力が必要な問題も、諦めずに粘り強く取り組むよう心掛けることが大切です。

Q3. 入学者選抜の出題範囲や出題方針はどうなっていますか

⇒ 出題範囲は小学校で学習する内容です。また、出題方針は小学校の学習指導要領の内容に即して、基礎的・基本的な知識・技能を見る問題と、身に付けた知識・技能を活用する力や論理的思考力をみる工夫をこらした問題を、総合的に出題します。なお、昨年度の適性検査問題については、大阪府教育庁のホームページで公表しています。

Q4. 入学者選抜では、小学校の成績なども合否には関係してきますか

⇒ 富田林中学校の選抜に際し、小学校での成績や所見を記載するような調査書の提出は求めません。